

CE

ID CARD AND ID BOOKLET HAVING SAID ID CARD

Patent Number: JP1285390
Publication date: 1989-11-16
Inventor(s): OBAYASHI KEIJI; others: 02
Applicant(s): KONICA CORP
Requested Patent: JP1285390
Application: JP19880116253 19880513
Priority Number(s):
IPC Classification: B42D15/02
EC Classification:
Equivalents: JP2813591B2

Abstract

PURPOSE: To enable an effective prevention of forgery and alteration, by a method wherein at least one part of a visibly image-recorded part is visibly image-processed according to individual information.
CONSTITUTION: In an ID card, at least one part of character information is printed on a hot melt layer 12 or a hot melt layer 31. As a printing method, a typewriter, a wire dot printer, a thermal printer, an electrophotographic method, or the like is used. In the electrophotographic method, the writing of the character information by a laser optical system is preferable. For printing on the hot melt layer 12, a substrate 21 is required to be a transparent substrate. On the hot melt layer 31, the character information is printed with a mirror image relation to normal characters. Therefore, the card is hardly forged because of this special characteristic.

Data supplied from the **esp@cenet** database - I2**BEST AVAILABLE COPY**

⑫ 公開特許公報 (A) 平1-285390

⑬ Int. Cl.

B 42 D 15/02

識別記号

331

庁内整理番号

A-8302-2C

⑭ 公開 平成1年(1989)11月16日

審査請求 未請求 請求項の数 9 (全10頁)

⑮ 発明の名称 IDカード及びこのIDカードを有するID冊子

⑯ 特願 昭63-116253

⑰ 出願 昭63(1988)5月13日

⑱ 発明者 大林 啓治 東京都日野市さくら町1番地 コニカ株式会社内

⑲ 発明者 須田 美彦 東京都日野市さくら町1番地 コニカ株式会社内

⑳ 発明者 野津 豪人 東京都日野市さくら町1番地 コニカ株式会社内

㉑ 出願人 コニカ株式会社 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号

㉒ 代理人 弁理士 鶴若 俊雄

明細書

1. 発明の名称

IDカード及びこのIDカードを有する
ID冊子

2. 特許請求の範囲

1. 個人情報の少なくとも一部を、可視的に画像記録したIDカードにおいて、前記可視的に画像記録された部分の少なくとも一部を、個人情報に応じて可視的に画像処理することを特徴とするIDカード。

2. 個人情報に応じた画像処理は、画像の少なくとも一部が濃度的に変調されることを特徴とする請求項1記載のIDカード。

3. 個人情報に応じた画像処理は、画像の少なくとも一部が間欠的に形成されることを特徴とする請求項1記載のIDカード。

4. 個人情報に応じた画像処理は、画像の少なくとも一部がネガーポジ反転処理されることを特徴とする請求項1記載のIDカード。

5. 個人情報に応じた画像処理は、画像の少な

くとも一部が補色形成されることを特徴とする請求項1記載のIDカード。

6. 個人情報に応じた画像処理は、画像の少なくとも一部を、特定の部位に形成された画像を他の部位に同じく形成されることを特徴とする請求項1記載のIDカード。

7. 個人情報に応じた画像処理は、特定の部位に形成された画像を、ある画像処理を行なった後、他の部位に形成させることにより行なわれることを特徴とする請求項1記載のIDカード。

8. 個人情報に応じた画像処理は、個人情報の部分及び共通の部分の両者により行なわれることを特徴とする請求項1記載のIDカード。

9. 冊子のある頁を、前記請求項1乃至請求項8のいずれかに記載のIDカードで形成したことを見出すIDカードを有するID冊子。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

この発明は、IDカード及びこのIDカードを有するID冊子に係り、詳しくは社員証、学生証

等の個人の身分を証明するに用いられるいわゆるIDカード及びこのIDカードを有するID冊子に関する。

【従来の技術】

社員証や学生証等の個人の身分を証明するいわゆるIDカードは、従来から用いられており、このIDカードには本人の顔写真や住所、所属、個人コードNo.等本人の確認を行なうため、種々の個人情報が記載もしくは貼付されている。

こうしたIDカードは、正常な使用形態においては充分その機能を果たしているものの、例えば紛失した場合、写真を貼り換えて変造したり、あるいは正規の作成ルートを経ることなく偽造したりして、悪用するケースがあり、社会的な問題を起こしている。

このため、従来からIDカードを作成する際には、特に写真には割印を押す等の工夫がされていいるが、近年はこれに換えカラー印画紙などをラミネートすることが広く行なわれるようになってきている。

の少なくとも一部を、個人情報に応じて可視的に画像処理することを特徴とする。

また、この発明のIDカードを有するID冊子は、その冊子のある頁を、前記いずれかに記載のIDカードで形成することを特徴としている。

この発明のIDカード及びID冊子を作成する際に行なわれ、個人情報に応じて可視的に画像処理方法にはいくつかの方法があり、例えば以下の示す方法を擧げることができるが、この発明はこれに限定されない。

a. 個人情報に応じた画像処理は、可視画像の少なくとも一部を濃度的に変調を行なう。即ち、本来の画像の一部において、その部分の濃度を本来の濃度に対して個人情報に応じて高める及び／又は低めることにより画像処理を行なう。

b. 個人情報に応じた画像処理は、可視画像の少なくとも一部を間欠的に形成させる。即ち、画像の一部で、本来形成されるべき画像の一部を、個人情報に応じて記録しないことにより、ストライプ状の画像あるいはモザイク状の画像を形成さ

【発明が解決しようとする課題】

ところで、IDカードを作成するための材料や器具等が比較的安価に入手できるようになってきたこともあり、さらに一層偽造や変造がしにくくIDカードが望まれている。

そして、前記のような偽造、変造に対してラミネート材料をより剥しにくくしたり、地紋や割印、彩紋等を印刷あるいは画像記録を行なったり、ホログラム等を用いて、より有効に偽造や変造を防止する試みがなされているが、さらに一層確実性の高い、偽造や変造を防止する手段が望まれている。

この発明はかかる点に鑑みなされたもので、この発明の目的は、偽造や変造をより一層有効に防止することが可能なIDカード及びこのIDカードを有するID冊子を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するために、この発明は個人情報の少なくとも一部を、可視的に画像記録したIDカードにおいて、可視的に画像記録された部分

せる。

c. 個人情報に応じた画像処理は、可視画像の少なくとも一部を、個人情報に応じてネガーポジ反転処理を行なう。即ち、画像の一部について本来低濃度であるべきところは高濃度に、本来高濃度であるべきところを低濃度に変換させる。

d. 個人情報に応じた画像処理は、可視画像の少なくとも一部を、個人情報に応じて補色形成させることにより行なう。即ち、本来イエロー、マゼンタ、シアン、青、緑及び赤の各々の色に形成されるべき部分を、それぞれ青、緑、赤、イエロー、マゼンタ及びシアンの各補色に相当するよう画像を形成させる。

e. 個人情報に応じた画像処理は、可視画像の少なくとも一部を、個人情報に応じて他の部分にも同様に全く同じパターンで形成させる。

f. 個人情報に応じた画像処理は、可視画像の少なくとも一部を、前記a～dに示される少なくとも1つの画像処理を施した後、前記eと同様に他の部分に画像形成させる。

前記個人情報に応じた画像処理は、個人情報の少なくとも一部の情報（例えば生年月日、性別等）及び／又は共通の情報（例えば発行日等）に基づき、前記画像処理を一定のルールに基づいて行なうものである。

前記画像処理されるべき、IDカード及びID冊子の部分は、特に限定されないが最も好ましくは本人の写真の部分である。即ち、本人の写真の部分は1枚1枚がすべて異っており、一般的な偽造や変造を最も行ないにくい部位である。

前記画像処理の手段は、單一の方法によつてもよいが複数の方法を組み合わせることが、偽造防止の点で好ましい。この場合、複数の部位に各々單一の手段で画像処理を施すこと、また複数の部位に複数の手段を組み合わせることもできる。

前記画像処理部位において、画像処理を行なう画素単位は、それが目で見て容易に識別し得る程度のものであつて、しかも後から改ざんし得ない程度であるものがよく、好ましくは画素の大きさ

ジットプリンター方式及び電子写真方式等を挙げることができる。また、これらの画像方法は適宜2種以上組み合わせて用いることもできる。

この発明においては、個人を確認するため特に顔写真を有することが好ましいが、そのような場合は顔写真の細胞を表現するために、鮮明性の良好なハロゲン化銀を用いた画像形成方式が特に好ましい。例えば、通常のネガ型またはポジ型のカラー印画紙等の画像形成方式（湿式処理）、例えば写真技術マニュアル（上）基礎編P104～114（1977年写真工業出版社）に記載されている粘調アルカリ液を用いたいわゆるインクント写真方式、日本写真学会第17会シンポジウム—熱現像型銀塩記録システムを考える—（1987年6月）要旨集P28～37に記載されているセミドライ方式及びP18～27に記載されているドライ方式等公知のハロゲン化銀を用いた画像形成方法を用いることができる。特に、好ましく用いられる画像記録体がハロゲン化銀カラー写真感光材料である場合には、画像記録は露光に

は1辺が0.05～3mm、特に好ましくは0.2～1mmの大きさのものが好ましい。

この発明のIDカード及びID冊子に記録されるべき個人情報は、公知方法例えばCCDカメラによる読み取り等によりデジタル電気信号として入力される。読み取られた個人情報は必要に応じて他の情報と組み合わされたり、あるいは読み取られた個人情報に基づいて、適当な手段により他の値に変換され、最終的忠実に記録されるべき画像情報が得られる。

次いで、この画像情報は前記の種々の画像処理を施された後、画像記録体に画像記録される。この発明のIDカード及びID冊子に用いた画像記録体に画像を形成する画像形成方式には、例えば活字による印字方式、ハロゲン化銀写真乳剤を用いた湿式処理の写真方式、ハロゲン化銀写真乳剤を用いた画像転写方式、あるいは例えばノンインパクトプリンティング技術と材料—（大野信編）シーエムシー発行（1986年）に記載されているような感熱転写プリンタ方式、インク

よってなされるが、この発明においては露光源としてタンクスランプ、ハロゲンランプ、キセノンランプ水銀灯、レーザー光、CRT光源、発光ダイオード及びFOT等種々のものを単独で、あるいは複数組み合わせて用いることができる。

この発明のIDカード及びID冊子を前記ハロゲン化銀写真感光材料を用いて作成する場合には、画像記録密度の点からレーザー光及び発光ダイオードが好ましく用いられ、最も好ましくはレーザー光が用いられる。

この発明に特に好ましく用いられるレーザー光としては、半導体レーザー（例えばGaAs、GaAlAs、GaInAsP、Ga(A_{1-x}P_x)、CdTe、InP、In_xGa_{1-x}As、InP_xAs_{1-x}等）、固体レーザー（例えばYAG:Nd³⁺、CaWO₄:Nd³⁺、CaWO₄:Ho³⁺、MgF₂:Ni²⁺、SrF₂:U³⁺、CaF₂:Tm³⁺等）、液体レーザー（例えばSeOCl₂:Nd³⁺、POCl₃:

Nd^{3+} 、クロロアルミニウム、フタロシアニン、3-ジエチルチアトリカルボシアニン等)、または気体レーザー(例えば中性希ガス原子、 $\text{Co}-\text{He}$ 、 CO_2-He 、 CO_2-Ne 、 $\text{NO}-\text{He}$ 、 $\text{N}_2\text{O}-\text{He}$ 、 $\text{He}-\text{Ne}$ 、 Kr 、 Ar 、 $\text{He}-\text{Cd}$ 等)が用いられるが、好ましくは半導体レーザー及び気体レーザーが用いられる。

また、特に赤外レーザー光と共に波長を1/2にするいわゆるSHG素子(Second Harmonic Generator)を赤外レーザー光と共に用いて可視光に変換させる赤外レーザー光とSHG素子の組み合わせも用いることができる。

このようにして得られた画像記録をIDカード及びID冊子にするため、好ましくは画像記録体の少なくとも一方の面がプラスチックフィルム等によりラミネート処理されると、耐傷性向上することができる。この場合、偽造や変造を防止する手段が、この発明の手段と共に必要に応じて組み合わされるが、そのような方法としては例えば画像記録体の画像記録層側の面をプラスチック

以下、この発明の一実施例を添付図面に基づいて詳細に説明する。

第1図及び第2図はこの発明のIDカードの一例であり、以下このIDカードの構成を具体的に説明する。

第1図はこの発明のIDカードの正面図であり、図において、IDカードには、個人の顔写真1のような画像情報と同時に、氏名、住所、所属等の個人に関する情報あるいは社名、学校名、発行日等の共通の事項2が文字情報として記載されている。

第2図にはこのIDカードの断面図を示す。このIDカードは画像が記録された画像記録体20、裏面ラミネート材料10及び表面ラミネート材料30よりなっている。

裏面ラミネート材料10はプラスチックフィルム11及びホットメルト層12より構成される。ホットメルトとしては、例えばポリオレフィン系樹脂、エチレン-アクリル酸系共重合体、エチレン-アクリル酸エステル系共重合体等公知のもの

フィルム等を強固に接着する特別のホットメルトや接着剤を介して強固に接着したり、IDカードを形成する一部にホログラムを形成したり、特定の部位にエンボス加工を施したり、あるいは特定のパターンを有する彩紋を反射面やプラスチック面の印刷を行なったりして、IDカードの偽造をより一層困難にさせることができるものである。

この発明のIDカードは1枚の型態として使用され、ID冊子はこのIDカードを有すると、IDカード部と筆記可能な頁を有していて手帳類の機能を併せ持ったものである。

【作用】

この発明のIDカード及びID冊子では、可視的に記録される画像記録の一部が、個人情報に応じて種々の手段により画像処理して形成される。このため、画像記録体を容易に複製することが困難であり、また一部を変造することも非常に困難で、より一層偽造や変造しにくいIDカード及びID冊子が得られる。

【実施例】

を用いることができる。プラスチックフィルム11には、好ましくはポリエチレンテレフタレート、ポリ塩化ビニル、ポリ塩化ビニル-酢酸ビニル共重合体、ポリアリレート類、ポリカーボネート類、ポリスチレン等が用いられる。

プラスチックフィルム11は透明であってもまた反射型であってもよいが、画像記録体20を構成する支持体21が透明である場合にはプラスチックフィルム11は光反射性で実質的に白さを与える表面反射特性を有していることが必要である。なお、反射型プラスチックフィルムに代えて、紙を用いることもできる。

この発明のIDカードにおいて、画像記録体20に画像を記録する際には、種々の公知の画像形成方法を用いることができる。その場合画像記録体20を構成する画像記録層22及び支持体21は各々の画像形成方式に従って好ましいものが選ばれる。

表面ラミネート材料30は透明なプラスチックフィルム32と及びホットメルト層31より構成

される。プラスチックフィルム32はプラスチックフィルム11と同様のものを用いることができるが必ずしも同一の材料である必要はない。ホットメルト層31はホットメルト層12と同様の機能及び素材より構成されるが必ずしも同一である必要はない。

この発明のIDカードにおいて、文字情報の印字の少なくとも一部は、ホットメルト層12あるいはホットメルト層31に行なうこともできる。

印字方法としてはタイプライター、ワイヤードットプリンター、感熱プリンター、電子写真方式等公知のものが用いられ、この電子写真方式の場合には、レーザー光学系で文字情報を書込むようにすることが好ましいが、光学系に液晶シャッタアレイ、LEDアレイ及びFOT等を使用することが可能である。

ホットメルト層12に印字する場合には、支持体21は透明支持体であることが必要である。また、ホットメルト層31に印字する場合には通常の文字と鏡像関係となるように行なうことにな

等で形成され、このプラスチックフィルムシートを折り返して、一方が冊子部40の外蓋で、他方がIDカード部50の外蓋となっている。

この冊子部40には鉛筆やペン等で筆記可能な頁を有する複数の頁42が設けられているが、この筆記可能な頁は特に設けなくてもよい。

IDカード部50は冊子の外蓋を構成する部位80、画像記録された画像記録体90よりなっている。

外蓋を構成する部位80は冊子の最外蓋を構成する部位81、プラスチックフィルム82及びホットメルト層83より構成される。ホットメルトとしては、例えばポリオレフィン系樹脂、エチレン-アクリル酸系共重合体、エチレン-アクリル酸エステル系共重合体等公知のものを用いることができる。

最外蓋を構成する部位81の材質は限定されず合成皮革、天然皮革等通常の手帳等を構成するような材質の類が用いられる。

第6図は第4図における顔写真部の拡大図であ

り、この特殊性故に偽造が困難となる。

第3図にはこの発明のIDカードの別の実施例の断面図を示す。

この場合には、画像記録体の支持体21は透明支持体であることが必要であり、裏面ラミネート材料10のプラスチックフィルム11は光反射性で実質的に白さを与える表面反射特性を有していることが必要である。

第4図及び第5図にはこの発明のIDカードを有するID冊子の例を示す。

第4図はID冊子の出来上がり図の例である。

この図において、ID冊子は筆記可能な複数の頁からなる冊子部40と、個人情報が記録されたIDカード部50から構成される。IDカード部50には個人の顔写真60や氏名、生年月日、住所、所属等の個人に関する情報あるいは社名、発行日等の共通の事項70が適宜記載されている。

第5図はID冊子を作成する状態の一例を示している。ID冊子の外蓋41は、例えば、容易に破損することがないプラスチックフィルムシート

り、この発明の画像処理が施されていないものである（比較例）。

第7図～第17図はこの発明の画像処理を行なった場合の顔写真部の拡大図である。

第7図及び第8図において、背景BG（シャツの色）は黄色の色をもっており、aとcのストライプ部分は画像色素が形成されない（白色）。bのストライプ部分はBGと同じ色をもっているが、dの部分はBGと補色の関係にある青色で画像記録される。これらのa～dの部分の色は、例えば、個人情報によって定まる背景BGの色によって、予め設定された色から所定の色が選択される。

a～dのストライプの縫巾はいずれも0.5mmである。

第9図及び第10図において、ストライプaの部分（縫巾0.5mm）は横方向に0.5mmのピッチで、未画像形成部（白色）とBGのネガボク反転画像（高い黄色濃度）が繰り返されている。dのストライプ部分においては、同じく未画

像形成部（白色）の部分と、黄色の補色で、かつネガポジ反転画像（高い青色濃度）が繰り返されている。

これらのe、fの部分の構成も、例えば、個人情報によって定まる背景BGの色によって、予め設定されたパターンから所定のパターン、色が選択されて画像処理される。

第11図及び第12図において、ストライプg～iはいずれも0.8mmの縫巾を有しており、ストライプg及びiでは第9図及び第10図のストライプjと同様に白色と高い黄色濃度が繰り返されている（ピッチ0.5mm）。ストライプkは白色とBGより低い黄色濃度パターンが繰り返される。

これらのg～iの部分の構成も、例えば、個人情報によって定まる背景BGの色によって、予め設定されたパターンから所定のパターン、色が選択されて画像処理される。

第13図及び第14図において、ストライプj～kは縫巾がそれぞれ0.5mm、1mm、

0.5mmになっており、このストライプjは白・黒のバターンを、ストライプkはBGと同じ均一なバターンを、ストライプlは黄色と青のバターンを繰り返している。

これらのj～mの部分の構成も、例えば、個人情報によって定まる背景BGの色によって、予め設定されたパターンから所定のパターン、色が選択されて画像処理される。

第15図は原図の1辺が約1/5に縮小された顔写真のが右上部に記録される。

第16図及び第17図は右上部nにカラーバーコード（間隔約1mm、縫巾0.6mm、縫間隔約0.4mm、縫長5mm）が記されており、このカラーバーコードはオリジナル画面の縦中心線を上から順に読み込んでいったときの色に対応する色が設定される。

この発明の画像処理の例は上記の例に限定されることはない。

次に、この発明をより具体的な実施例について説明する。

-dのパターンを繰り返した）。

次いで、画像記録体90を第5図に示すような冊子（反射支持体として白色ベットを有する）と重ね合わせ、約120℃にて加熱押圧ローラを通してにより、第4図に示すこの発明のIDカードを有するID冊子が得られた。

以下に、第18図に示されるレーザー露光装置のブロック図の説明をする。

シアン色素画像をコントロールする信号Gはレーザー光変調回路127に入力され、この出力信号131によりHe-Ne（緑色用）レーザー101から出力されたレーザー光134は、レンズ系105により収束後、ダイクロイックミラー106により緑色成分のみが、ポリゴンミラー119のある方向へ反射される。

同様にしてマゼンタ色素画像をコントロールする信号Rは、レーザー光変調回路128に入力され、この出力信号132によりレーザー107から出力されたレーザー光135は、レンズ系111により収束後、ダイクロイックミラー112に

透明な支持体上に、下記の層を有するハロゲン化銀カラー写真感光材料を作成した。

層1は、シアノカブラー含有緑感光性塩基化銀乳剤層（AgCl99モル%）

層2は、ゼラチン中間層

層3は、マゼンタカブラー含有赤感光性塩基化銀乳剤層（AgCl99モル%）

層4は、ゼラチン中間層

層5は、イエローカブラー含有赤外感光性塩基化銀乳剤層（AgCl99モル%）

層6は、ゼラチン保護層

前記感光材料に、画像処理を施した個人情報及びその他の情報を、感光層側から第18図に示すレーザー露光装置で、緑（He-Ne）、赤（He-Ne）及び赤外（半導体）の各レーザー光により露光を施し、特開昭63-41848号公報の実施例1に記載の方法で処理して、第5図に示す画像記録体90を得た。

ここで、画像処理は第7図及び第8図に示す形のものである（但しa-b-c-d-a-b-c

より赤色成分のみが、ポリゴンミラー119のある方向へ反射される。

また、イエロー色素画像をコントロールする信号1Rは、レーザー光変調回路129に入力され、この出力信号133によりレーザー113から出力されたレーザー光136は、レンズ系117により収束後、ダイクロイックミラー118により黄色成分のみが、ポリゴンミラー119のある方向へ反射される。

この3つの異なる波長の光の混合されたレーザービーム145はポリゴンミラー119に導かれる。

このポリゴンミラー119は制御信号発生部148で制御されるポリゴンミラー駆動部147で回転され、レーザービームを ϕ -Dレンズ120、ミラー121、シリンドリカルレンズ122を通して感光材料123上に照射され露光する。

この感光材料123はステージ124に収納され、このステージ124はモータ126によって

矢印方向へ移動される。このモータ126はモータ駆動回路146によって駆動され、このモータ126の駆動は前記制御信号発生部148によりポリゴンミラー119と同期して行なわれる。

【発明の効果】

前記したように、この発明のIDカード及びID冊子では、可視的に記録される画像記録の一部が、個人情報に応じて種々の手段により画像処理して形成されるため、画像記録体を容易に複製することが困難であり、また一部を変造することも非常に困難で、より一層偽造や変造しにくいIDカード及びID冊子が得られ、より一層偽造、変造を防止することが可能になる。

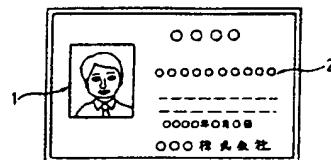
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明に係るIDカードの正面図、第2図はこの発明に係るIDカードを作成する一例示す図、第3図はIDカードを作成する他の実施例を示す図、第4図はこの発明のID冊子の斜視図、第5図はID冊子を作成する一例を示す

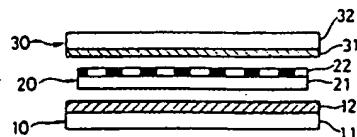
図、第6図は比較例の顔画像の拡大図、第7図乃至第17図は画像処理された実施例を示す図、第18図はレーザー露光装置のブロック図である。

図中符号1、60は顔写真、2、70は共通事項、10は裏面ラミネート材料、20、90は画像記録体、30は表面ラミネート材料、BGは背景、a～eはコントラストである。

特許出願人 コニカ株式会社
代理人弁理士 関石俊雄



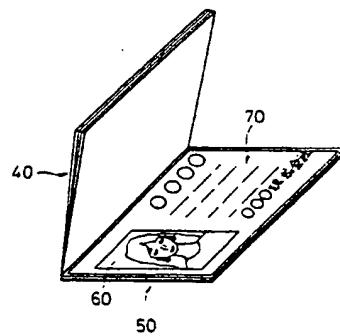
第1図



第2図



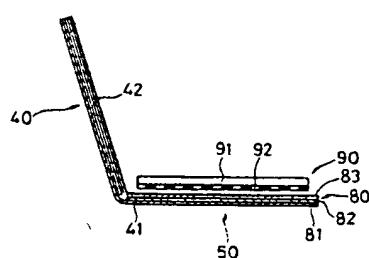
第3図



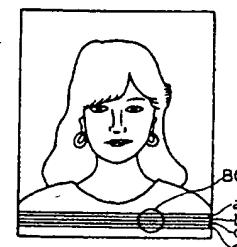
第 4 図



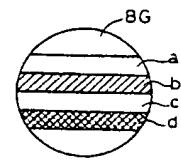
第 6 図



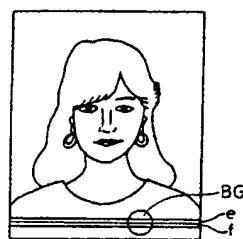
第 5 図



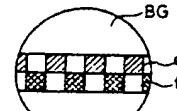
第 7 図



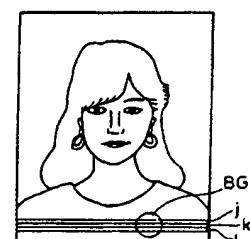
第 8 図



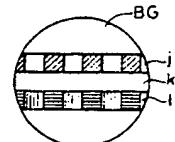
第 9 図



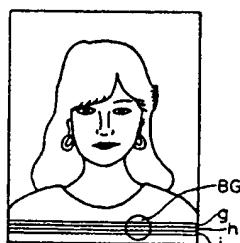
第 10 図



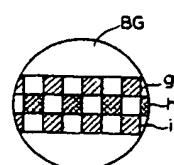
第 13 図



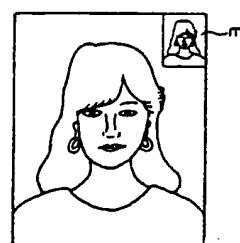
第 14 図



第 11 図



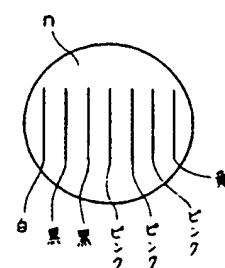
第 12 図



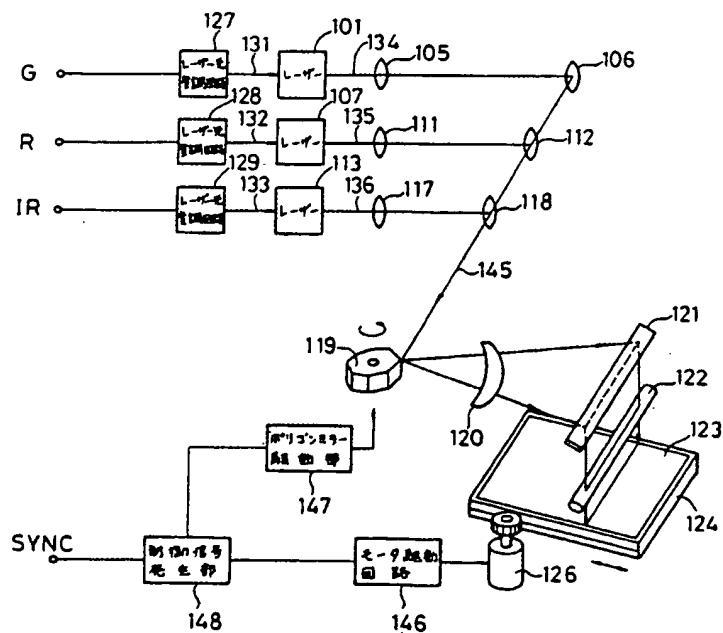
第 15 図



第16図



第17図



第18図

手 統 補 正 書

平成1年7月24日

特許庁長官 吉 田 文 殿

1 事件の表示

昭和63年特許願第116253号

2 発明の名称

I Dカード及びこのI Dカードを有するI D冊子

3 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号

氏名 (127)コニカ株式会社

4 代理人平180

住所 東京都新宿区西新宿4丁目29番4号

西新宿ハウス512号 電話03(375)3740番

氏名 (8170)弁理士 関若俊雄

5 補正命令の日付 自発提出

6 補正の対象 明細書の発明の詳細な説明の欄及び図面

7 補正の内容 別紙のとおり

方式 中
郵送

(1) 明細書第6頁第1~6行の「同じパターンで」を「同じパターンで、もしくは必要に応じて拡大または縮小させた後に相似形で」と訂正する。

(2) 同書第7頁第2行乃至4行の「(例えば生年月日、……に基づき)」を「(例えば生年月日、性別、顔写真等)及び必要に応じて共通の情報(例えば発行日等)を含めた情報に基づき」と訂正する。

(3) 同書第8頁第4行の「CCDカメラ」を「CCDカメラやスキャナー」と訂正する。

(4) 同書第12頁第5行乃至第8行の「プラスチック面の印刷を行なったりして」を「プラスチック面に印刷したりして」と訂正する。

(5) 同書第12頁第9行乃至第10行の「I Dカードを有すると、I Dカード部と筆記可能な頁」を「I Dカードを有し、更に筆記可能な頁」と訂正する。

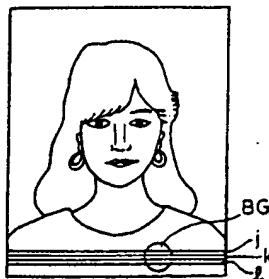
(6) 同書第17頁第9行と第10行の間に「画像記録体90は画像記録層92及び支持体91で

構成され、各々の画像形成方式に従って好みしいものが選ばれる。」を挿入する。

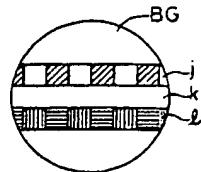
(7) 同書第17頁第16行と第17行の間に「また、ホットメルト層83に代え、接着層を用いることもできる。この場合、画像記録層92と接着層が熱的に接着剤を用いることなく接着される。接着層及び画像記録層92は好みしくは熱的に溶融接着可能なポリマーが用いられる。好みしく用いられるポリマーとしては、ポリ塩化ビニル、塩化ビニル-酢酸ビニル共重合体、ポリエチレン、ポリエーテル、ポリカーボネート類である。」を挿入する。

(8) 図面中第13図及び第14図を別紙の通り訂正する。

以上



第13図



第14図